

第1学年*組 平成*年*月*日(*) 第*校時 1年*組教室 指導者 ** **			
育成する国語の能力			
単元名	評論「水の東西」		
単元目標	<p>○文章の組立てや進め方について理解を深め、工夫して書こうとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○文章の組立てや進め方を工夫して書くことができる。 (書く能力)</p> <p>○書くことに必要な文章の組立て、語句の用法について理解することができる。 (知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]のイの(イ))</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
	・文章の組立てや進め方について理解を深め、工夫して書こうとしている。	・文章の組立てや進め方を工夫して書いている。	・書くことに必要な文章の組立て、語句の用法について理解している。
取り上げる言語活動	自分の考えを400字の文章にまとめること。		
題材(教材)	「水の東西」山崎正和(『国語総合』教育出版) 「ゴリラの思いやり」山極寿一 「200字コラム」コンクール入賞作品5本		
単元(教材)について	(1) 生徒観：指定した文字数で自分の考えをまとめることはできるが、論理的に自分の考えを整理したりまとめたりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。 (2) 教材観：二項対立形式を用い、水をめぐるかかわり方の違いから東西文化の相違について述べている教材である。文章の論理構成がしっかりしている文章であるため、生徒たちが論理の構成や展開を工夫するうえで、参考また見本となる教材である。 (3) 指導観：授業の目的は、構成や展開を工夫し自分の考えをまとめることである。そのために、並行読書を取り入れて比較的簡単な教材を通して文章の構成を考えさせる。文章を書く際には、その学習内容を生かし、序論では「自分の意見」、本論では「自分の意見の理由や根拠」、結論では「自分の意見を再度まとめる」という構成で400字の意見文が書けるようにする。		
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価
	1 「学校行事を行うことについてあなたの意見を述べなさい」というテーマで、自分の考えを400字の文章にまとめる。		・テーマに合った内容の文章を書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
	2 単元の教材文を通読し、二項対立形式で書かれていることを捉える。また、語句の用法について理解する。		・本文の内容について理解しようとしている。 (関心・意欲・態度) ・語句の用法について理解している。 (知識・理解)
	3 「水の東西」と「ゴリラの思いやり」の構成・内容について理解する。		・文章の組立てについて理解している。 (書く能力)
	4 「水の東西」の起承転結ごとの内容と、「ゴリラの思いやり」の序論・本論・結論ごとの内容を理解する。(本時)		・文章の組立てについて理解している。 (書く能力) ・語句の用法(特に接続詞)について理解している。 (知識・理解)
	5 「200字コラム」の構成について考える。3時から本時まで学習した内容を活用し、次時で書く意見文をまとめやすくするために構成メモを作る。		・文章の組立てや進め方を工夫して書くための材料をまとめている。 (書く能力)
	6 前時まで学習した内容を活用し、再度「学校行事を行うことについてあなたの意見を述べなさい」というテーマで、自分の考えを400字の文章にまとめる。		・文章の組立てや進め方を工夫して書いている。 (書く能力)
	7 同じテーマで書いた2つの意見文について、構成・論理展開の観点で客観的に比較し自己評価を行う。		・文章の組立て、語句の用法について理解している。 (知識・理解) ・文章の組立てや進め方を工夫して書いている。 (書く能力)

本 時 案 (第4時)

本時の目標	○教科書教材「水の東西」と並行読書材「ゴリラの思いやり」(新聞記事)の文章の構成や論理展開について理解している。(書く能力) ○語句の用法(特に接続詞)について理解している。(知識・理解)	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時で学習した内容の確認をする。	○「水の東西」の構成が起承転結の4つの構成であることと「ゴリラの思いやり」の構成が序論・本論・結論の3つの構成であることを確認させる。	
論理的な文章の構成を学ぼう。		
2 「水の東西」の「起」部分について考える。	○「鹿おどし」を取り上げることにより、そこから本題に入っていく導入部分になっていることを理解させる。	○文章の構成や論理展開について理解している。(書く能力)
3 「ゴリラの思いやり」の「序論」部分について考える。	○「子供をゴリラが助けて運ぶ事件」と書くことが、ここから続く本論の内容の導入となっていることを理解させる。	〈記述の点検〉
4 「水の東西」の「承」部分と「転」部分について考える。	○「鹿おどし(時間的な水)」と「噴水(空間的な水)」といった例を挙げて、水をめぐるかかわり方の違いとその理由を述べようとしている部分であることを理解させる。	【指導の手立て】 前時行った学習内容をノートで確認し振り返らせる。
5 「ゴリラの思いやり」の「本論」部分について考える。	○「序論」で書かれた事件の原因・理由が、具体的に書かれていることを理解させる。	
6 「水の東西」の「結」部分について考える。	○「見えない水」と「目に見える水」という言葉を用い、筆者が自身の主張をまとめている部分であることを理解する。	
7 「ゴリラの思いやり」の「結論」部分について考える。	○本論を受けて筆者の考えがまとめた部分であることを理解させる。	
8 「ゴリラの思いやり」の接続詞の使い方について考える。	○接続詞が文章を展開していくうえで重要であることを理解させる。	○接続語の用法について理解している。(知識・理解)
		〈記述の点検〉